

2022年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [遠藤龍斗]

学年・組・番号 [1年G組23番]

研究課題: 頼朝の政治構想、北条氏の権力掌握

(英文) Yoritomo's political conception and the Hojo clan's seizure of power

研究概要:

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200~400字で記入してください)

吾妻鏡の記述や、玉葉、愚管抄などを調査すると共に、先行研究も参照し、独自の考察を加える。自分のイメージする源頼朝や、北条氏について、その実像と開きがあるのではないかと疑問を抱いた。冷酷な源頼朝、頼朝の盟友である北条時政、といった風である。また、頼朝の死後、直ぐに実権が北条氏に移ったというようなイメージについても、疑問を覚えた。本研究は、源頼朝が鎌倉に幕府を開くにあたって、どのような政治構想を持ち、何を目指していったのかを考えていくと共に、頼朝を中心とした源氏将軍の権力が北条氏に移っていく過程について解き明かすことが目的である。当初、それだけでなく、都市鎌倉やその文化についても研究することを考えていたが、種々の研究や文献を調べていくにつれ、今の自分の情報収集能力では、都市計画や宗教政策から、頼朝の政治構想を紐解くのは難しいと感じた。結局、テーマを絞って論ずることにした。

研究成果:

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200~400字で記入してください)

吾妻鏡の記述や、上洛の回数、儀式を通した秩序の確立などを総合した結果、頼朝には王朝と独立した勢力を築こうという明確な意思があったと思われる。以上のことから、鎌倉幕府成立年を考える時に、頼朝の目的に重点を置くならば、1180年、もしくは1183年が妥当であると考えられる。しかし、大姫入内計画から、頼朝自身の根底にある「貴種性」を拭えていたかには疑問がある。また、先行研究の参照から、時政が頼朝の厚い信頼を得ていたという見解は修正すべきだと結論付けた。比企氏の乱については、吾妻鏡と愚管抄の記述の相違、疑問点から、政子の陰謀説という新たな見解を導いた。また、北条氏の権力掌握の過程には、御家人と北条氏という対立軸だけでなく、北条時政と政子・義時の対立も存在すると分かった。

研究者: (以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 遠藤龍斗

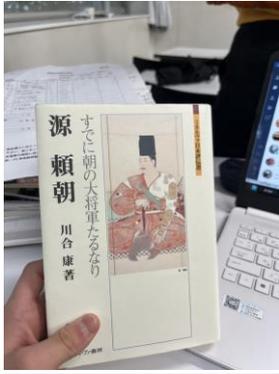
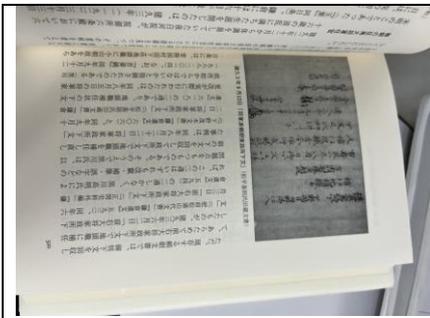
担当教諭 松澤徹

(受給額: 20000円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEBページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真:

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



以上